

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：山名善之 就任年月： 2010 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：伊藤 毅 主 査 名：
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2014 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・我が国において、よりよい生活環境の創成のために、都市及び建築環境の変容の過程と現状を認識する必要性はますます増大している。建築文化に係わる史資料の収集・整理・公開のための「建築アーカイブズ」環境の整備は喫緊の課題となっている。本委員会は、「建築アーカイブズ」環境の整備に必要な一次保管施設の設置を推進し、併せてアーカイブズ・ネットワークの確立と、収集・整理・公開のための共通の方法論を検討することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2010)国内建築資料の状況調査および建築アーカイブズの問題点整理</li> <li>・(2011)国内状況調査・資料整理方法論の研究および事例調査</li> <li>・(2012)国内状況調査・資料保存方法論の研究および事例調査</li> <li>・(2013)建築アーカイブズ・コンソーシアム形成のための方法論研究</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し 主査：山名善之(東京理科大学) 幹事：山崎鯛介(千葉工業大学)、戸田穰(金沢大学) 委員(五十音順)：加藤雅久(居住技術研究所)、桐原武志(AALab./芦原建築設計研究所)、倉方俊輔(大阪市立大学)、志岐祐一(日東設計事務所)、鈴木博之(青山学院大学)、竺覚暁(金沢工業大学)、津村泰範(文化財保存計画協会)、藤岡洋保(東京工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2011 年度予算	210,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：無し

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	(2011)国内状況調査・資料整理方法論の研究および事例調査 上記の活動目標に則り 6 回の会議を開催した(4/22, 8/23, 9/15, 10/14, 12/16, 3/13)。国内状況については、(仮称)国立近現代建築資料館設置の公表を受けて、将来の提言の機会に備えて具体的な建築アーカイブズ運営について協議した。日本ア

	<p>アーカイブズ学会提言の JSAS アーキビスト資格認定制度等への対応を協議した。外部からニッセイ基礎研究所の吉本光宏氏(4/22)、東京都公文書館の佐藤氏(9/15)、京都大学総合博物館の五島敏芳氏(3/13 予定)との意見交換を行った。また日本における、本格的な建築アーカイブズ研究の必要性に鑑み、本小委員会メンバーを中心に、平成 24 年度文部科学省科学研究費補助金に応募した(研究題目「国際研究拠点としての近現代建築資料館の運用を目指した建築アーカイブズ学の創生研究」)。</p> <p>日本アーカイブズ学会「登録アーキビスト(仮称)」資格認定制度案に対する意見書を、本小委員会メンバー有志(山名、山崎、加藤、桐原、倉方、志岐、津村、戸田)として提出した(2011年9月)。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2011 年度までの活動により国内の建築資料コレクションの把握については、一定の成果を得たが、今後も調査を続ける。</li> <li>2. 上記に把握した既存の国内建築資料の相互提携を目指したメタデータ統一のための準備を進める。まずは日本建築学会建築博物館、JIA-KIT 建築アーカイブス、京都工芸繊維大学工芸資料館など、国内の主要なアーカイブズの整備方法論を整理する。</li> <li>3. 上記の目標に鑑み、2012 年度は、より具体的・実務的なレベルでの関係者間の交流と議論を重ねる必要がある。</li> <li>4. 併せて海外建築アーカイブズとの協力関係構築にも継続して努める。</li> </ol>